

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止

# 地獄

- 碧猫総集編 -







# 収録作品

- ◆コメイジスケジュールAM 3
- ◆コメイジスケジュールPM 31
- ◆地霊殿ハーレム -closed β- 62
- ◆さとりの居ぬ間に。(描き下ろし) 73



# コ スプレ ン ル AM



DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



もあも  
せがいしれ  
とみああい  
めああい  
う





鼻を擦ぐる  
珈琲の香り

AM 6:45



おはよう  
ございます

朝一に会うのは  
無償の愛を  
捧げてくれる  
最愛の存在



深い微睡みから  
覚醒へと導かれる



よく  
眠れましたか？

……  
それはよかった

答えるまでもなく  
彼女は  
人の心を読み

一人で納得し  
微笑みかけてくる



カップを一つ  
受け取ると  
香りが鼻を抜け  
頭が段々と冴え渡る

実に爽やかな  
朝であった

もし?  
さとりさんや?  
何をしたらっしやる  
のでしよう?

いえ……

珈琲にミルクを  
入れるのを  
忘れてまして

ちよつと  
因果関係が  
わかりかねます

彼女が私の股座を  
弄り回そうとして  
いなければの話だが

まあ  
なんと  
言いますか

「こちら」も  
朝は  
大変でしょう?

せっかくなので  
恋人らしく  
処理してあげようと  
思いました♡



あちなみに  
私の手には  
あなたのモノと

熱々の珈琲が  
握られている事を  
お忘れなく

ご無体な



小さく  
可愛らしい舌で  
丹念に舐め取られ



彼女の  
白く細い指が  
愚息を這う



朝の冷たい外気と  
熱い吐息が溶け合い

唾液で濡れた部分が  
その空気を敏感に  
感じ取って  
心地よい快感となる

そのまま愚息が  
さとの舌と口で  
弄ばれていく





単に朝だから  
血が巡って  
いるのか

それとも小さい子に  
朝立ちを  
処理させている情景に  
興奮してるのか



どちらにせよ  
いつもより  
早めの射精を  
余儀なくさせる

真っ白な欲望を  
クチュクチュと  
楽しそうに  
口内で弄んだ彼女は――





しばらくの後  
自分のカップにへと  
精液を吐き出した



精液入りの  
コーヒーを  
ぐるぐるとかき混ぜ



何事も  
なかつたかのように  
爽やかな  
朝の続きを嗜む



……あなたも  
いかがですか？

……あら  
それは残念

心を読まずとも  
分かっている問いを  
投げかけられた

恋人の異常な偏食に  
少し呆れながら  
身支度を整える





意外にも  
自由気ままな  
地霊殿の生活が  
見え始めていく

朝食も摂り終わり  
各自今から  
起きてきたり  
お勤めに向かったりと

AM 7:48



朝の口付けだけは  
欠かさずに  
求めてくるので  
応えてやる



しかし  
彼女たちは  
皆揃って



以前は朝から  
身体を重ねることも  
少なくなかったが

さとりが  
節制するよう  
無言のうちに  
聞かせるから

さとりだけが  
こっそり  
求めて来る時だ  
あるのは秘密だ





地霊殿での  
お仕事が始まる

主に彼女の側で  
事務仕事の  
簡単な手伝いを  
おおよそ毎日の  
業務だ

AM 9:21



だが実際のところ  
事務仕事ができる  
ような人材が

この地霊殿で  
自分と彼女ぐら  
いしないのも事  
実でありか



身寄りもない外  
の人間が妖怪の  
元で働くとな  
るとこの程度が  
精一杯なのであ  
る



やっっている事  
は外の世界と  
あまり変わら  
なくとも自分  
が貴重な戦  
力だと自覚  
できるのは

負い目を  
感じる事  
もなくそれ  
なりに幸  
福であつた



恋仲となつた  
キツカケであ  
る手伝いを申  
し出した時

泣いて喜ば  
れるほどだ  
つたのは  
今でも覚  
えている





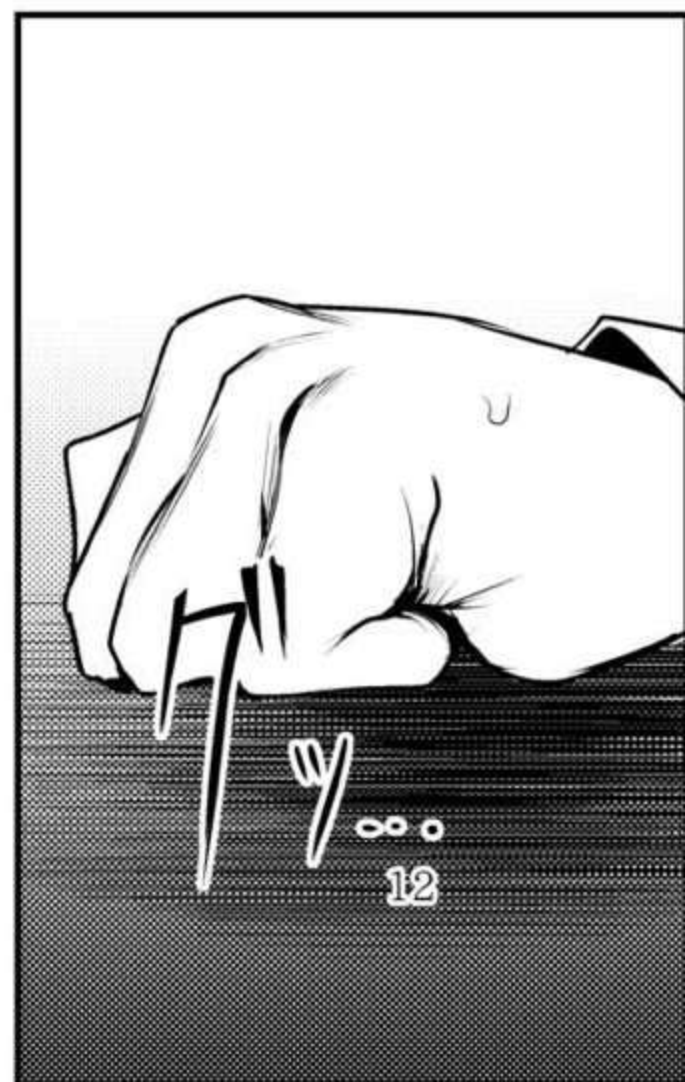
仕事の場でも  
恋人と二人きり  
という環境は



彼女にとっても  
願ったり叶ったり  
なのだろう



ただ



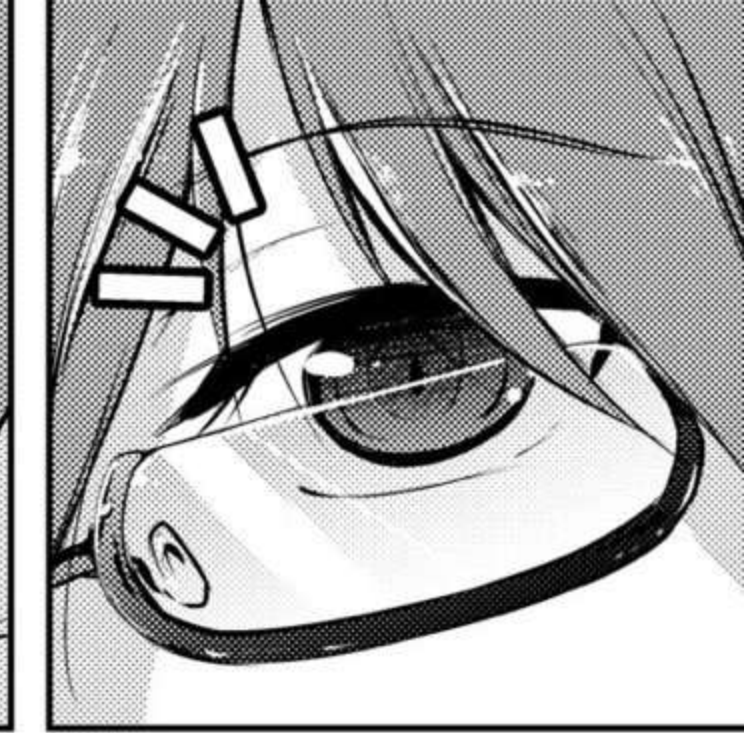


二人っきりなのは  
彼女の範疇での  
視界の範囲が  
話なのだが

最初から居たのに  
気づかなかつた  
訳は無く

無意識下に股座へと  
潜り込んだこいしに  
愚息をしゃぶられる





小さい舌が  
ねっとり絡みつき  
絶頂を促し

根本まで  
飲み込まれた愚息から  
こいしの食道へと  
精液が送りこまれる





流石に  
限界だっ  
たのか  
口内で  
受け止  
めきれ  
ず

愚息から  
口を離し  
たい欲が  
飛び散ら  
かる



一日が始  
まった  
可愛い姉  
妹を両方  
汚しあげ  
てしまっ  
た



こいしは  
丁寧に  
顔にかか  
った取り  
精液をす  
くいとる

愛おしそ  
うに  
味わう様  
子を  
見せつけ  
てくる





そう言うのと  
彼女は席を立ち



少し休憩を  
いれましょうか

……  
大丈夫そうでは  
ありませんね



こちらの机へと  
身体を  
乗り出して



よいしょ……



……  
……  
どうぞ  
……  
……  
お好きな  
ように



どうぞと  
言われましても

こいしも  
いつまでも  
そこに居ないで  
出て来なさい

……そもそも  
隠し事が  
できないなんて  
分かりきってる  
ことでしょう

ほら……

AM 9:49

遠慮しないで  
構いませんよ





幼い秘裂をこじ開けるように挿入する

さとのりの折れそうなほど細い腰を鷲掴みにし



何度か抽送を繰り返した後に一旦引き抜き

今度はこいの秘裂に狙いを定める




机に押し潰すような格好で最奥まで突いてやると



見る見るうちに快楽へと飲み込まれていくのが分かる








姉と妹の膣内の  
感觸の違いを  
味わいながら

欲望のまま  
互いの秘裂へ  
交互に挿入する



突く度に  
ぶらりぶらりと動く  
浮いた足は  
まるで人形のように

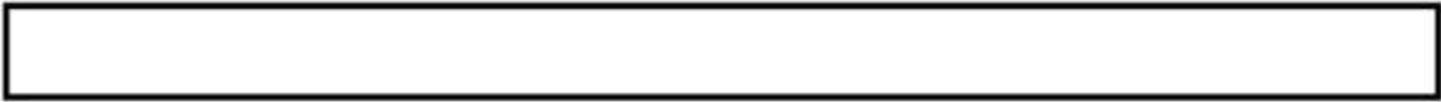
姉妹を  
性処理道具のように  
扱っている  
感じがして興奮する





好き勝手に打ち付けた後  
二人の膣内へ  
欲望をたっぷり注ぎ込んだ

二人は子宮まで  
精液で満たされた事に  
快びの嬌声を漏らしていた



AM 10:31

行為を終えた後  
二人にお掃除してもらう

顔と同程度の  
大きさもある愚息に  
こびりついた精液を  
姉妹で取り合うかのよう  
に舌を這わせてくる

二人の頭を  
優しく撫でながら  
背徳的な光景と快楽を  
十分に堪能した



報告と  
連絡の元へ  
おに



放っておけば  
ずっと解放して  
くれなさそうなので

仕事を理由に  
なんとか  
二人から抜け出す

AM 11:06



まあお茶でも  
淹れるから  
ゆっくりに  
していつてよ



ドサッ

朝からの宮みで  
身体が結構  
重かったの  
お言葉に  
甘えさせてもらう

ソファに  
深く腰を降ろし  
息をつくと



おや、お兄さん  
お疲れ様ー

報告書と  
連絡要項  
届けにきたよ

うらうら  
置いていてー





お隣がそのまま  
流れるように  
膝へと  
乗り上げてくる

頬を擦り付けて  
しばらくの間は  
動かないぞと  
間接的に宣言された



一言何か  
言おうとすると

そのまま  
口を塞がれ  
なし崩しに  
押し倒された





さつきまで抱いていた姉妹には存在しない

膨やかな双房がふによんと押し付けられ興奮してしまう



んふ…♡正直な反応だね

あたいの身体で感じてくれて嬉しいな…♡





キスも  
より一層  
激しいものになる

両手は  
弾力のある胸に  
導かれて



あ!!!

このまま  
抱いてしまおうと  
姿勢を  
動かそうとした時



お憐  
ダメだよー!

さとり様から勝手に  
えっちしちゃうダメって  
言われてるのにー!



お空う……

もうがっさい



お仕事しないと  
ダメだよー

また  
さとり様に  
怒られ  
ちやうよ？

あいやいや  
サボってやる  
わけじゃあないさ

お兄さんが  
職場の立場利用して  
身体を要求してきたから  
仕方なく  
応えてるだけだよ

息をするかのように  
評価を落とされた

というか  
お隣さんや  
最低野郎なんです

姉妹両方  
お手つきにしてる  
時点で何言われても  
お兄さんは  
文句言えないよ

そうだ  
お空も混ざりなよ

お兄さんも  
その方が嬉しいってさ  
業務上の命令だから  
大丈夫大丈夫

まー  
巻き込んでやば  
いから

少しお隣に  
物申したかったが

ま、  
えっちな匂い  
させながら  
人の仕事場来る方が  
悪いってことで

うん！  
それなら  
混ざるー！

ごもつともだった





後ろからお尻を抱え上げた  
待ち構えていた  
愚息で貫く

匂いに当てられて  
いたからか  
十分に秘所は  
濡れており

身体をビクンと  
跳ねさせつつも  
最奥まで柔らかく  
迎え入れてくれた



時折漏れる  
蕩けた鳴き声を  
楽しみながら

身体を  
隅々まで愛撫し  
膣内を犯していく





おはーい  
お兄さん♡

おっばいだよー♡

服を肌蹴させ  
無邪気に  
乱入してきたお空が  
圧倒的質量を  
目の前につきつけてくる

たわわな実りを  
口いっぱい頬張り  
乳首を舐り  
夢中でしゃぶりあげる

くらくらするほどの  
甘い香りと味が  
頭一杯を支配して  
蕩けるように心地よい





彼女たちの  
献身的なご奉仕に  
五感も愚息も快楽に包まれ

射精に導かれるまで  
そう時間は  
かからなかった

各々が絶頂を迎え  
身体をびくびくと  
可愛らしく撥ねさせる



あんなに♡  
次い♡  
私にもしてえ♡

あたいの身体  
良かったかい...?

抱かれるのを  
ねだってくる  
二人を両脇に抱え  
楽しんでいと





遅ったらー



お仕事中に随分と楽しんでるようである

……ところでお話があるのですが

げ

PM 12:00

この後お空を抱いて二回射精した後お昼ご飯は抜きになった。午後の業務が憂鬱である。  
29

……にゃーん

構いませんよ  
ではお隣その間に貴女とのお話を済ませましょうか

……お空を  
抱いた後でも  
いいですか？



地獄のみしか知らずにいるのは紛れもなく地獄である。  
天国のみしか知らずにいるのも紛れもなく地獄である。

地獄を知り、天国を知る者のみが、楽園へと辿り着けるのだ。



# コ スプレ ズ

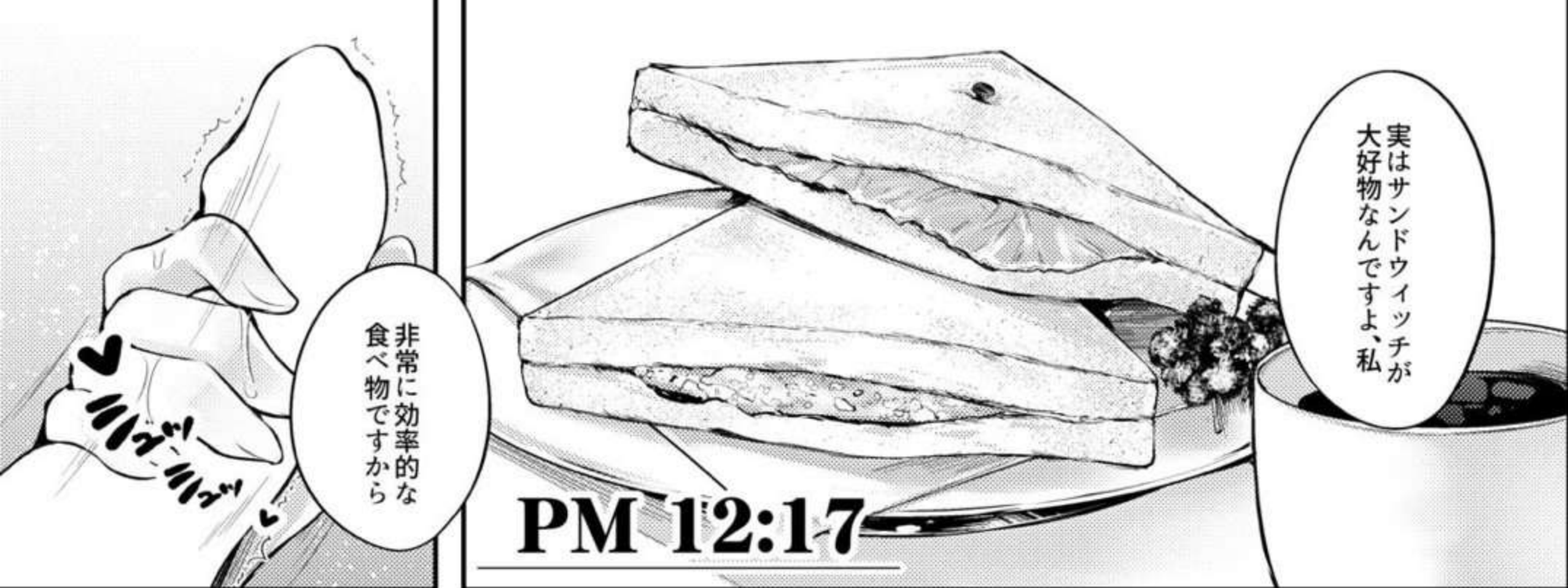
PM

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止



まほらはここに在った。





非常に効率的な  
食べ物ですから

実はサンドウィッチが  
大好物なんですよ、私

PM 12:17



食べながら  
仕事でも  
ポーカーでも……

片手で食事を摂りながら  
もう片方の手で  
別の事もできる



恋人への  
ご奉仕でも、ね？



さとりの小さな手が  
優しく愚息を這う

激しさもなく  
好きな時に果てもいいと  
言わんばかりの  
ねっとりとした  
刺激に耐えきれず

う...

彼女の顔に欲望を  
吐き出そうとした瞬間

ビクンと跳ねた  
愚息は薄切りのパンに  
ばっくりと包み込まれ

チュルッ

ゴクッ

カラフルな具の中へ  
欲望の白色が  
彩られて行く事になった

ゴクッ

ゴクッ





精液が溜まったおよそもう  
食べ物と言いつい難い「それ」を  
平然と口へ運んでいく



そんなの  
気になりませんよ

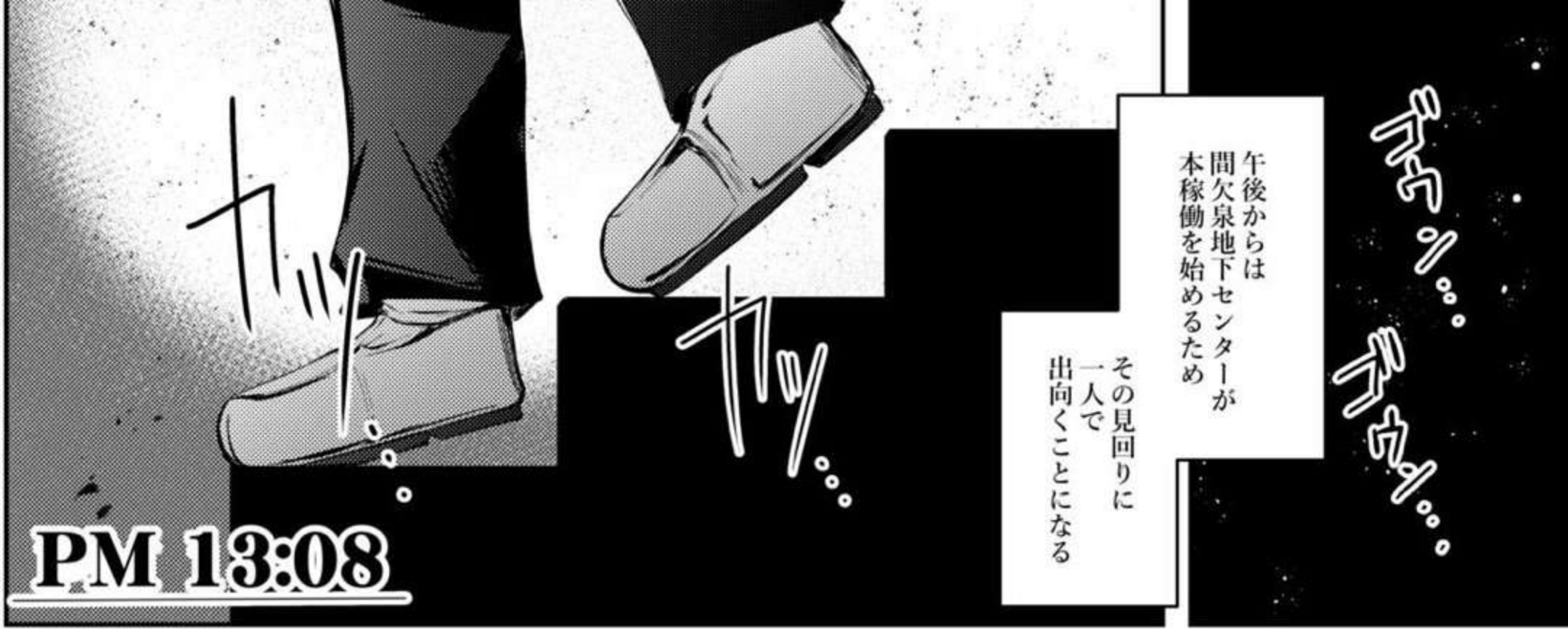
溢れた欲望で顔を汚しながら  
うっとりとした顔で  
味わい嚥下していくさとり  
「汚いですよ」と申し出ても



あなたの汚いところも  
全部ひっくるめて  
愛してるんですから

そう  
返されてしまった





PM 13:08

その見回りに  
一人で  
出向くことになる

午後からは  
間欠泉地下センターが  
本稼働を始めるため

カッ...カッ...

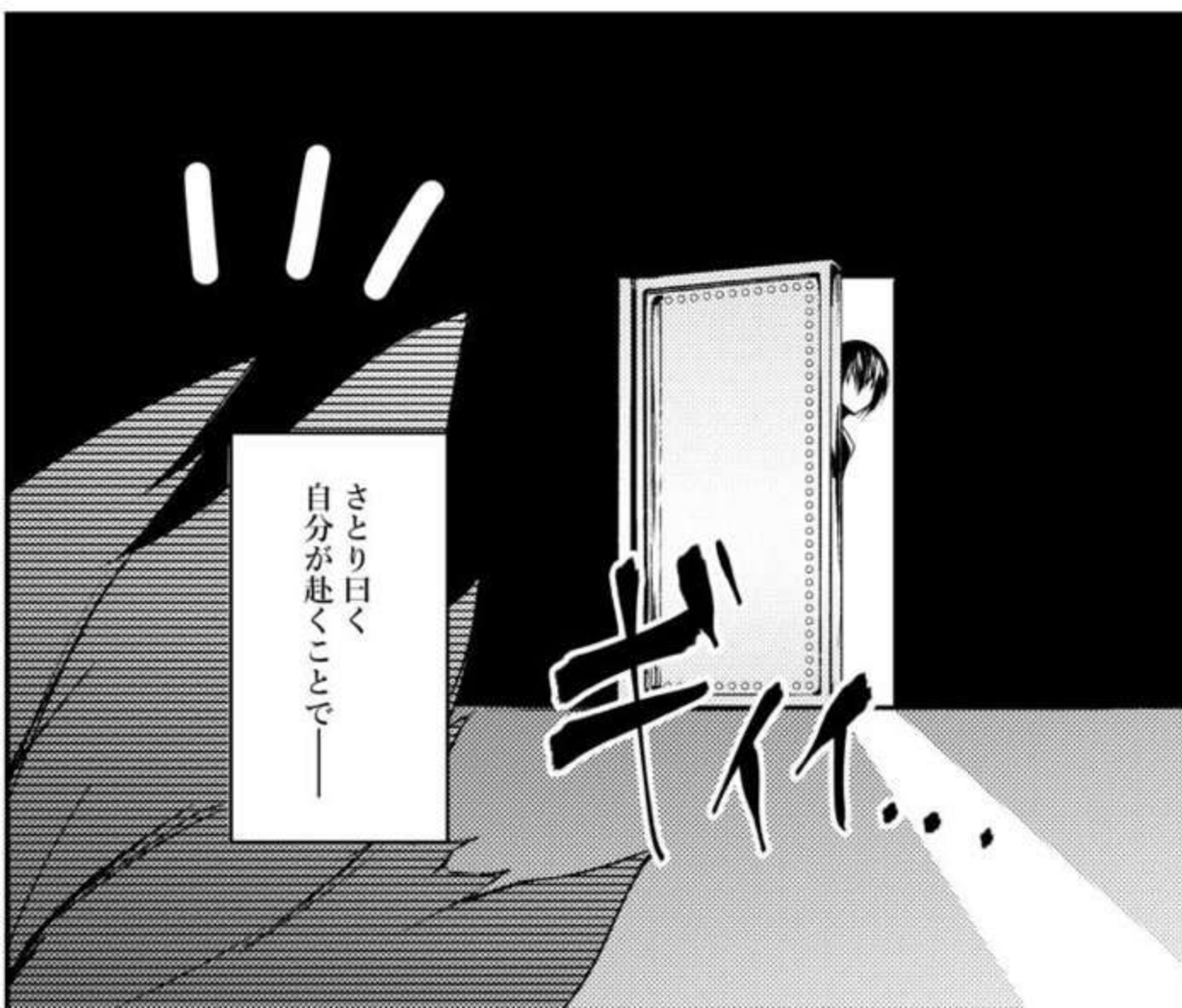


本格的な管理自体は  
山の神様や河童などが  
徹底してくれているし

そもそも核融合なぞ  
何の装備も持たない人間の  
手に負える代物ではない

ゴッ...

ブッ...



さとり曰く  
自分が赴くことで

カッ...



それでも  
この見回りを  
任されているのは

ガ





「お空の作業能率が桁違いになるから」という話のよう

効率的な彼女らしい提案だ



おごーかーん！

はっはっはっ



空の柔らかい身体の一部が押し付けられる

えへへー今日も頑張るね



つい形の良い  
おっぱいに  
手が伸びると

この無邪気さと  
豊富な身体を  
普段から堪能していると  
考えてしまい  
下半身が反応してしまう

あ、おっぱい  
したごめん。

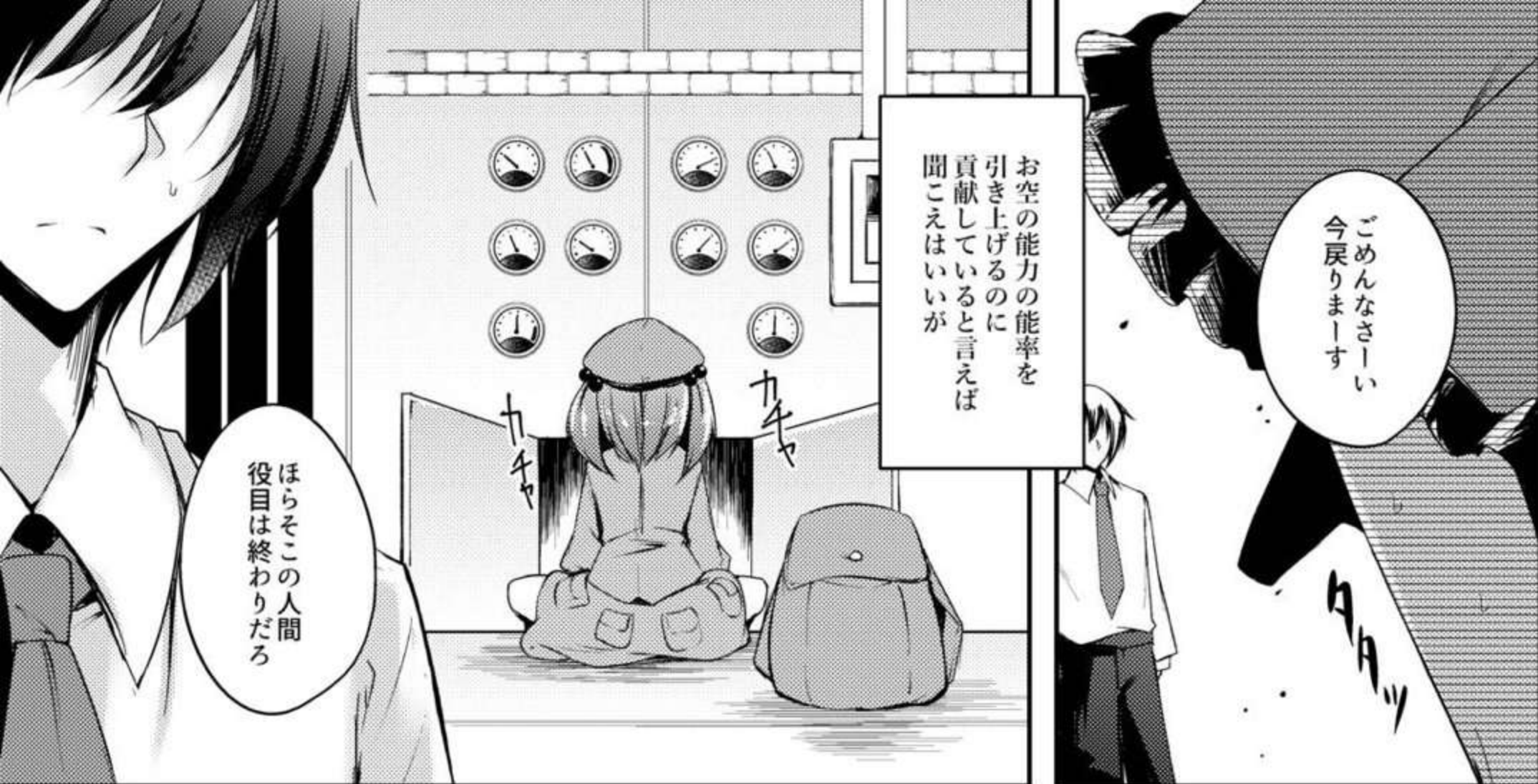
tomen. tomen.

おい  
炉内の数値が  
不安定になってんぞー

また  
あの人間が  
来てんのかあ？

ありや





ごめんなさい  
今戻ります

お空の能力の能率を  
引き上げるのに  
貢献していると言えば  
聞こえはいいが

ほらその人間  
役目は終わりだろ



ただでさえ不安定故に  
監視が必要なのに

さらに安定が崩れる  
要因であるというのも  
事実なため

危ないから部外者は  
とつとと帰れ帰れ

現場からは  
あまりいい顔を  
されていい



そのため  
投げられる冷たい視線が  
理不尽な因縁になる前に  
その場を離れる事にする

まあ  
この嫌な視線の  
一番の理由として  
思い当たるは





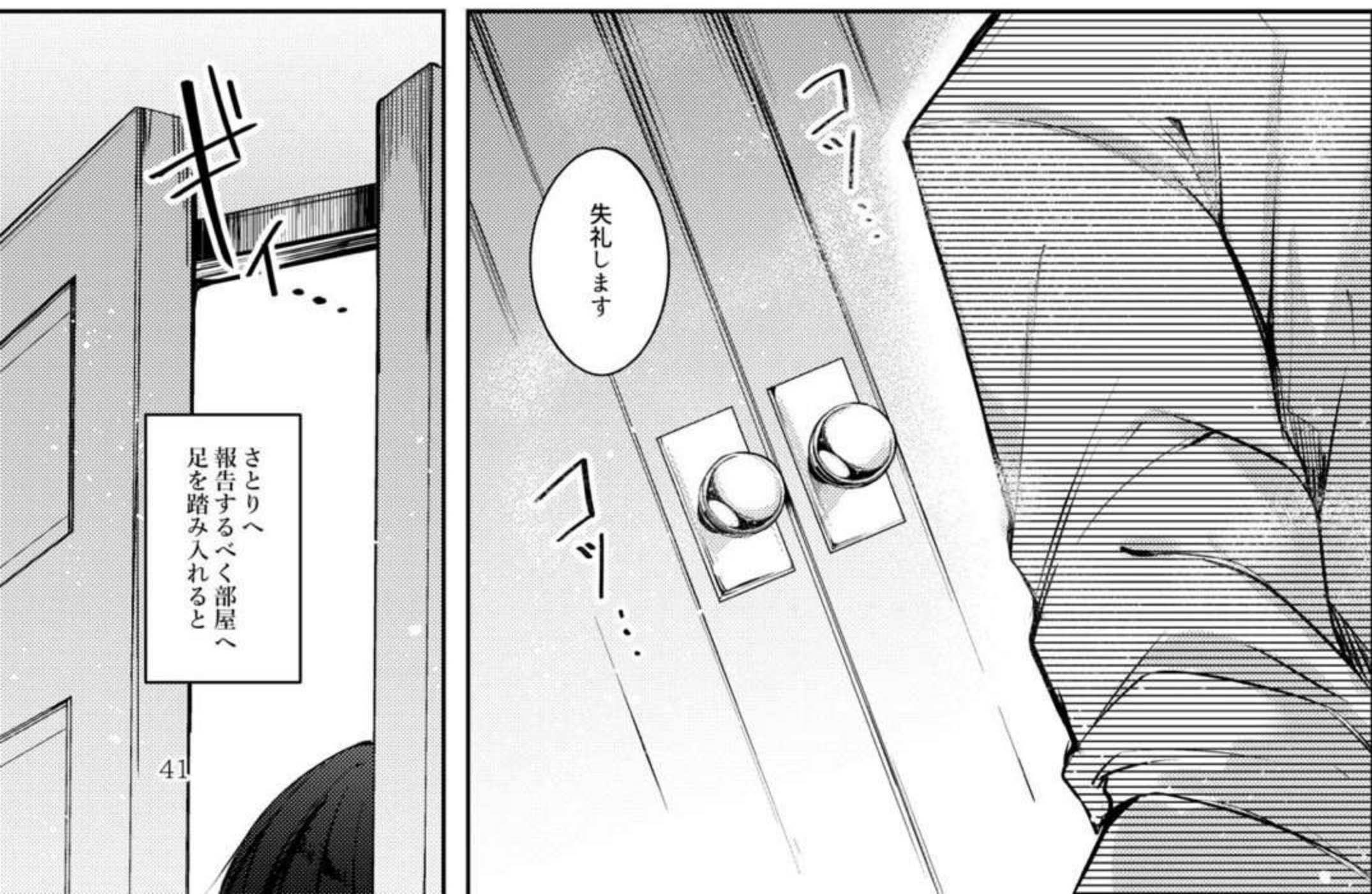
かつて炉内で  
ついそのままお空と  
セックスした時に――



あわや大惨事を  
引き起こしかけた事が  
原因なのだろうが

あれは流石に  
巫女さんにも  
怒られたので  
反省はしている







そこには  
原始的手段で暑さを凌ぐ  
幼い裸族が二人  
へばっていた

お疲れ様です

……  
お疲れ様です

いやあ  
こう暑くては  
仕事になりませんね

そうは  
思いませんか  
こいし

お姉ちゃんの  
言う通りー

排熱機器の稼働率には  
余裕があるんですから

暑いのなら見直しを  
検討するべき  
なのは



何事も節約と――

はだけた衣服から  
局部がチラチラ見えるように  
わざとらしく手で仰ぐ

休憩は大事ですよ  
あなた

地霊殿の主としての矜持なのか  
どうも仕事中に堂々と  
自分から求めるというのは  
したくないように

こうして非常に  
あけすけなアプローチで

「お仕置きだから仕方なく」  
「求められたから仕方なく」  
といった形にしたいらしい





妹の方に関しては  
室内ですっほんほんで  
居ること自体が  
なんかもう  
楽しくなっているようだ



そんな  
自尊心が高いところは  
彼女らしく  
とても愛らしいのだが

この室温では  
さとのりの方の方が  
心配である



……ご無理  
なさらないで  
ください





……あら  
気遣って  
頂けるのですか

汗だくの中  
貪り合うのも一興とは  
思いました

そう  
耳元で囁かれ



体液を撒き散らしながら  
欲望のまま身体を求め  
好き放題に二人を犯す  
光景が脳裏によぎる



ほんの一瞬のことだが  
心を読む彼女に  
見逃されるはずもなく

……せっかくお気遣い  
頂いてることですし  
今はやめておきましょうか

含みのある笑顔で  
ニタリとされる





こいし  
そろそろやめなさい

はい

それでは……



残りのお仕事も  
頑張ってください  
あなた♡

キュッ……♡

そんな激励と  
ご褒美のキスを  
ほっぺたに一つ貰う



……ただ  
夜はいっぱい  
愛してくださいね……♡

毎晩のように  
愛し合っているにも  
関わらず

こうした夜伽の約束を  
律儀に交わしてくるのは  
彼女の可愛い癖である



キスを買ってからの  
多少のニヤけ面を  
気にしつつも  
今日の分の仕事は  
滞りなく終わり

一服でもしよう  
と  
休憩室に向かうと

猫耳の先客が  
ソファで  
うとうとしていた

んあ……

どうもおにーさん  
お疲れ様ー

お疲れさま

PM 17:05

最近この時間帯の  
お燐はいつも  
こうである

自分がさよりの仕事を  
手伝うようになり  
今まで忙殺され  
行き届いてなかった

地霊殿内における  
管理の目が  
行き渡るように  
なった結果





要領良くサボったり  
休憩していた者の  
精神的な疲労が  
増えているらしい

お燐も適度に  
そうだった事を  
楽しんでいたらしく

仕事が終わる時間帯には  
もうこうして  
疲れ果てている事が多い



そうすればその時間は  
抜き打ち監査が来る  
心配がないわけで

うん



：こうお兄さんが  
仕事中定期的に  
さとり様  
抱くとするじゃん

うん



……完璧じゃね

そーだねー



お兄さんは抱けて幸せ  
さとり様は抱かれて幸せ  
私はサボれて幸せ

うん





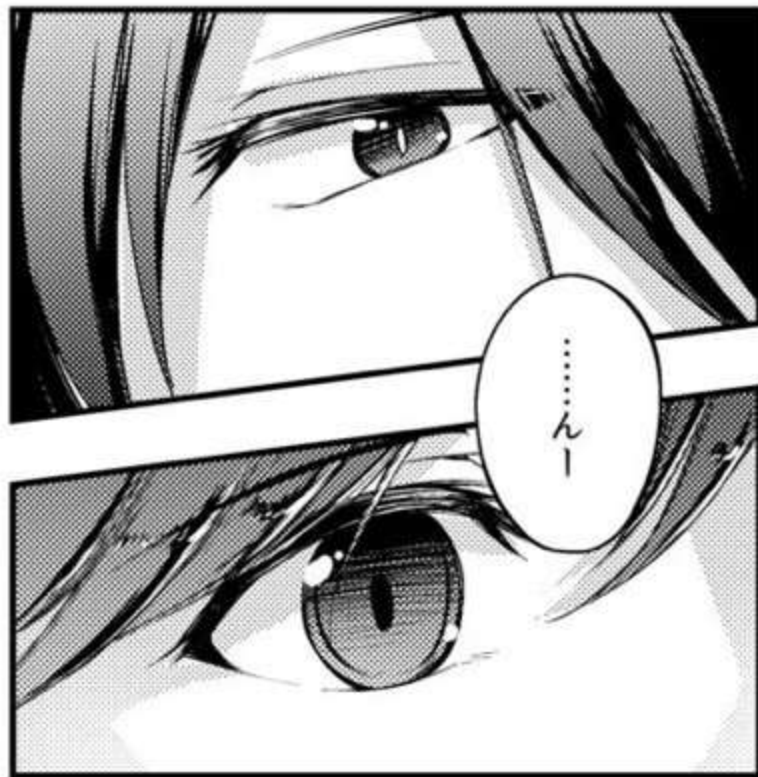
そしてお隣が  
膝の上に来て  
抱きついてくるのも  
何時も通りである

ちよーつと  
お兄さん分  
補給させてねー



至極甚だ悉く  
これ以上ないほどに  
無意味な会話が  
交わされる

いつも通りだ



……んー



……あたいたちも  
煙草休憩みたいにさ  
定期的にこうするのは  
許してくれるかな？

どうだろうなあ



押し付けられた  
柔らかい身体を  
優しく抱き返してやる

さとり様も流石に  
都合が良すぎると  
思うんだよー



毎日の休憩と称して  
自己主張の激しい  
お隣の身体を好きに抱く

外の世界で言えば  
フレックスタイムと  
言う奴だろうか

職場で合法的に  
同僚とセックス  
するような

そんな光景を  
少し想像して  
しまったら

あはは  
朝あんなにしたのに  
元気だねえ  
お兄さん

先刻の生殺しも相まって  
予想以上に  
愚息が反応してしまった





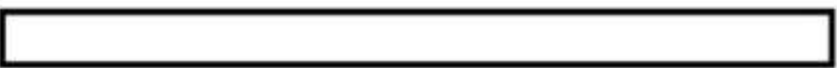
大変魅力的なお誘いだが  
疲れてるところ  
無理させるのも悪いので  
やんわりと断っておく

その分長めの抱擁で  
お隣の匂いと身体を  
十分堪能する事にした



どうするー？  
今ならあたいの身体  
好きに使っていいよ？

おにゅん♡



一日ぐらい  
我慢しても  
別に死なないのにー



PM 19:18

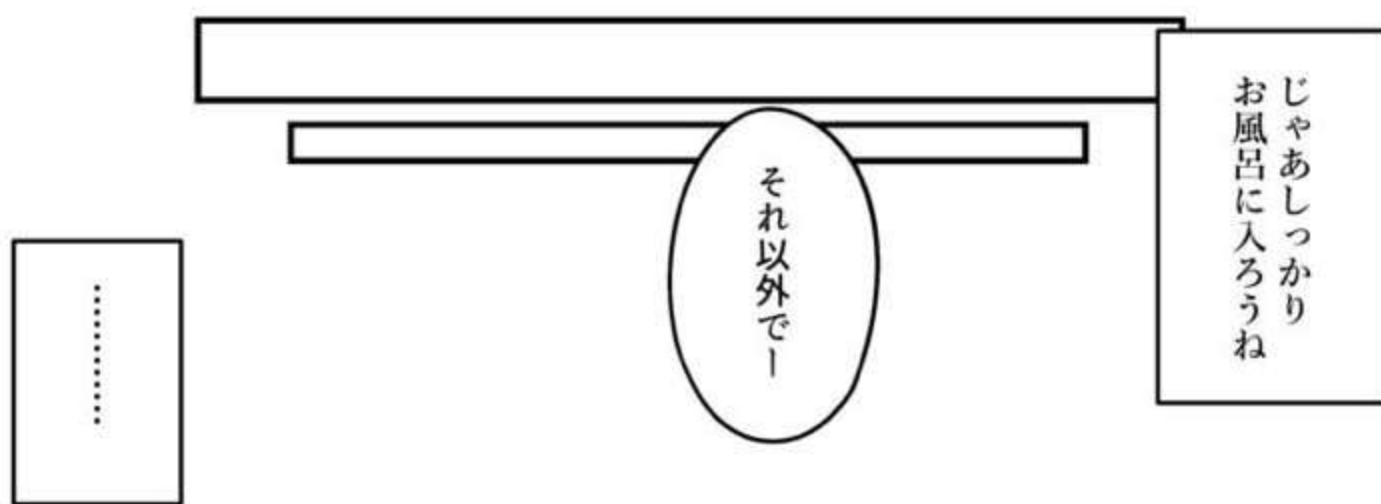
猫の毛づくろいって  
かなり綺麗になるんだよ  
ホントだよ

いやほらさー  
あたいは自分で  
毛づくろいしてるし











試しに  
「泡踊りしてくれたら  
上がっていいよ」と  
冗談を飛ばしてみると

即座に押し倒され  
ご奉仕を始められた

とびきり贅沢な  
二つのスポンジが  
粘り気のある音を立てて  
身体へ擦り付けられる

二人からは  
「湯浴みを  
早く済ませよう」  
という意思が  
感じられるが



あのまま大人しく  
湯船に浸かってた方が  
結果として入浴時間は  
短くなったのでは  
と思うのだが

面白いので  
そのまま奉仕を  
続けさせる事にする

拙さは残るとはいえ  
二人とも処女の時から  
何回も身体を重ねた身

自分を女にした陽物の  
快楽のツボは感覚で  
抑えているらしく

普段より  
滑りの良いご奉仕で  
情けなくもすぐに  
何回も達してしまった

まあ落ちとして  
結局三人一緒に  
のぼせ上がる事と  
なるのだが



PM 21:11

明日の準備も終え  
寝室に戻ると

姉妹がすでに  
待機しており  
ベッドに迎え入れられる

軽くスキンシップを  
交わしながら  
一日の疲れを  
お互いに労りあい

疲れが残らないよう  
いっぱい癒して  
差し上げますね…♡

今日も一日  
お疲れ様でした…♡

やがては恋人たちの  
夜の営みへと  
切り替わる





どちらからともなく  
接触が増えてきた二人を  
股座に座らせ

まずはいつも通り  
姉妹二人一緒に  
ご奉仕してもらう

幼い見た目の二人に  
愚息を手放して  
味わわせる光景は

嗜虐心と征服欲が  
良い塩梅で刺激され  
非常に興奮する



細い足を掴み  
羞恥の声を上げるさとりへ  
お構いなしに股を開かせ

愚息をあてがい  
小さく狭いさとの腔内に  
文字通り我が物顔で挿入する

なんやかんやと  
お互いお預け状態に  
なってしまったのだから

今夜はさとりにも  
心ゆくまで  
悦んでもらおう



こいしの方は  
お仕置きするかのよう  
尻をこちらへ向けさせ

無理矢理気味に  
一気に根本まで  
挿入する

姉と同様に  
小さく狭い腔内は  
全てを受け入れるように  
異物を歓迎してくれた

腕を引っぱり  
ぶつけ合うように  
こいしの身体を  
無遠慮に味わう

姉妹故に似たように思えて  
微妙に違いのある腔内の感触を  
交互に挿入しながら堪能する



小さいながらも懸命に  
刺激を重ね  
子種をねだって来る膣内

口・鼻・喉から  
肺いっぱいまで  
むせ返るような甘い香り

疲れを労るような  
懸命なご奉仕を受けつつ  
与えられる快楽に身を任せ

何も考えず  
ただただ  
この甘美な環境を  
好き勝手に蹂躪する

そんな背徳的な行為に  
得も言われぬ  
快感を感じながら

地獄に咲く  
二つの花の蜜壺を  
心ゆくまで  
貪り尽くさせて頂いた





AM 0:00



今日も一日  
お疲れさまでした…♡

ちゅん…♡



明日もいっぱい  
愛して  
くださいね…♡

終



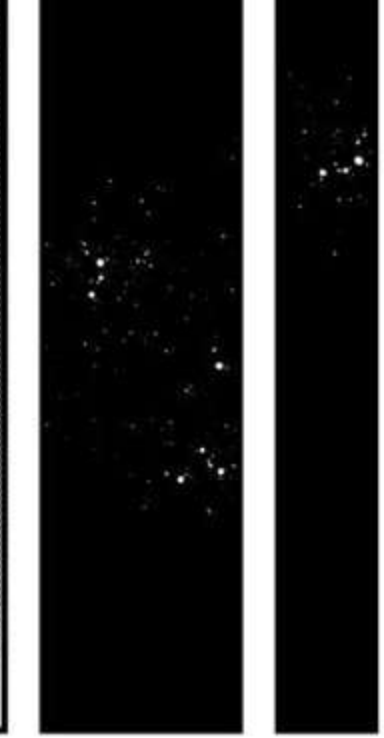
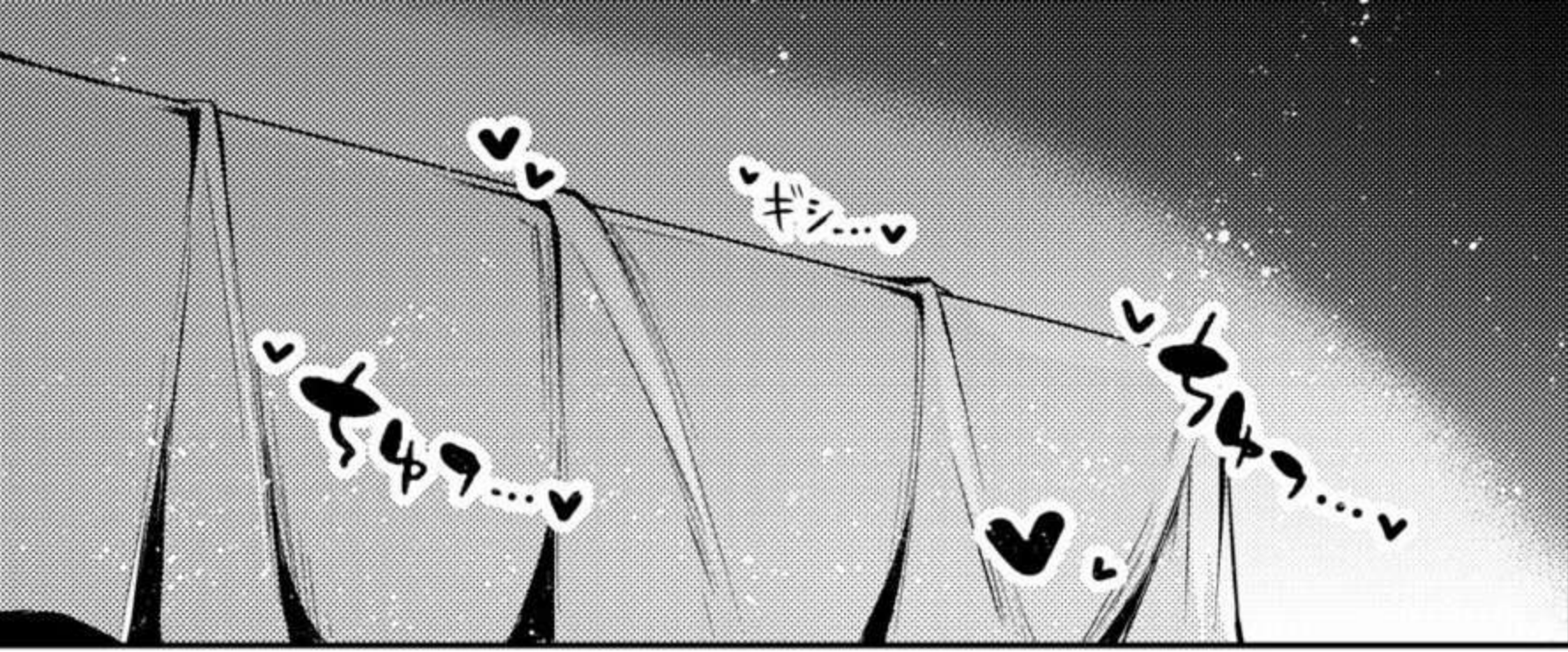


地靈殿  
ハーレム

- closed  $\beta$  -

DOJIN  
R18  
成人向け  
18歳未満の  
購入・閲覧禁止

















ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

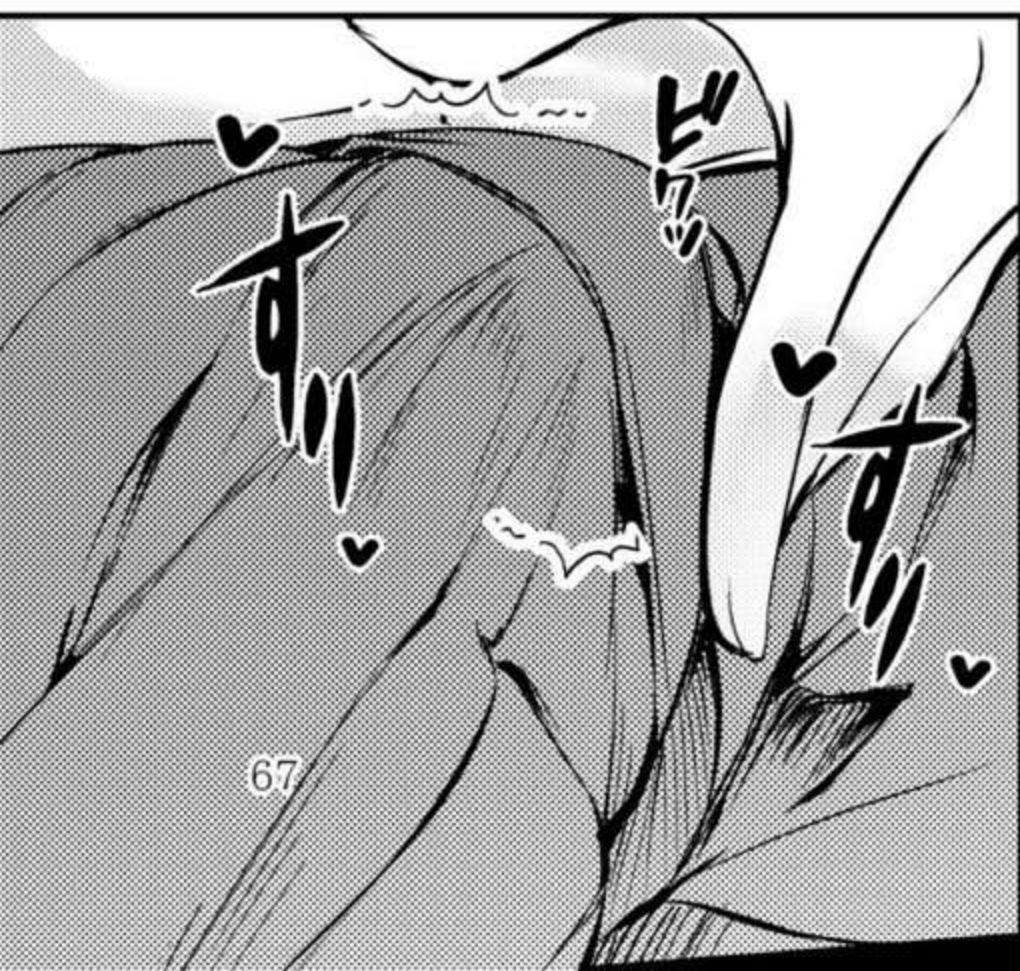
ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ

ハハハハ



















地獄の楽園に囚えられた  
男の末路は記された。  
書記からまろび落ちる虹はいつ見える。



地に昇る月はてらてらと  
愚者を導いて枯れ果てる。



朝の光が  
瞼越しの眼球を  
刺激する

今日の起床は  
瞼が上がるより  
頭が覚醒する方が  
先だった

見ていた夢が  
だんだんと  
白く染まって行き、  
纏まりのない思考で  
頭の中が埋まっていく

ああ、  
今日は身体が  
重いなあ、とか

そういえば  
今日はお休み  
貰ってたなあ、とか

水音もするから  
雨かなあ、とか

そんな  
半覚醒特有の心地良さを  
振り払いながら  
目を開けると





おおよそまどろみ関係無く  
気持ち良い理由を  
主張する存在が  
いらっしやいました

ひびく...

総集編描き下ろし  
さとりの居ぬ間に。



起きちゃった?

あ、おはよー  
お兄ちゃん



ちゅっ...





今日は  
お姉ちゃんが  
お燐と朝早くから  
地上に行ってるから……



代わりに  
お兄ちゃん  
の「処理」して  
あげなさいって



頑張るから……  
楽しんでね♪





下着越しの小さい尻が  
ふりふりと揺れ  
視界を楽しませてくれる



いやらしい水音と  
下半身の温かい快楽

こちらからは見えない  
というのも  
非常に興奮する材料だ



すでに興奮していたのか  
愛液を零す秘所を  
舐めながら

内股で頭を抑え、  
こいしの喉奥まで犯し  
食道に精液を流し込む



んー……  
まだ元気なの？

ふあっ……



それじゃあ……

次は  
こっちだね……♡



お姉ちゃんが  
居ない間に  
いっぱいしようねー♪







先程まで眼前に広がっていた  
小さな小さな秘密の花園へ  
愚息が乱暴に侵入していく

抵抗なくすんなりと  
受け入れた  
柔らかい膣内は

押し返そうと  
するどころか  
より深くまで侵略者を  
歓迎してくれた

ぐわっぐわっ



あの小さいモノに  
自分のモノを必死に  
啜え込んでいる

その事を考えるだけで  
股の方へ血が巡り  
つい腰の動きが  
激しいものになる

ぐわっぐわっ



先程の絶頂で  
敏感になっており  
すぐに果てそうになるのを  
誤魔化すため

太ももを抑え  
未発達な花園の一番奥……  
子の部屋まで一気に蹂躞する

腰を打ち付ける度  
人形のように  
身体が跳ね

落ちてくる勢いに合わせて  
またさらに奥深くまで  
こいしと繋がっていく

指では届かない  
奥深くまで  
えぐってやると  
大きな快樂の波に  
小さい身体を震わせる





子壺を満たす侵略者が  
膣口から  
音を立てて溢れ出ると



最後は  
こいしの絶頂に合わせ  
最奥で精液を注ぎ込む



余韻に耐えきれないのか  
情けない声を上げながら  
べたりとこちらへ  
身体を預けに来た





ねーねー  
このまま一緒に  
二度寝しちゃおー♡



しあわせー♡



いやいや  
起こしに  
来たんじゃないの  
そう返答する  
間もなく

おやすみー  
お兄ちゃん……♡

絶頂の疲労で  
そのまま  
眠りに入ってしまった



こいしの寝顔を見ながら  
そんなことを  
考えている内に

自分も再び夢の世界へ  
引きずり  
込まれていく



……まあ今日は  
お休みだし……

温かいこいしの身体を  
ずっと抱いてたりで  
こちらも少し眠気が……

次に目が覚めるのは  
二人共  
お昼過ぎであった





取り急ぎ  
お空の寝室へと向かう

フッ

昨日の夜、同じ休日のお空を起こすようさとりに頼まれていた事を思い出し



お空ー？

フッ



ガチャ

しかし  
ノックへの返事はなく  
仕方ないので  
部屋に入ると



お昼過ぎだと言うのに  
未だ幸せ熟睡状態の  
彼女が居た

起こそうと近づく際、  
ふとさとりからの  
言伝を思い出す





お昼過ぎになったら  
流石に叩き起こして  
やってください



あの子は休みの日  
放っておくと  
ずっと寝ようと  
しますから……

多少激しく  
起こしてやらないと  
ちっとも起きませんので  
ご注意を



まあ……  
後はあなたに  
一任します

……



とりあえずゆすつてみたり  
声をかけてみたり  
してみるが  
一向に反応はなく

ほっぺを  
つねってみても  
振り払われる様子もない











彼女にとって  
「えっちな事」とは  
不浄的な物というより  
気持ち良い事という認識であり

「好きな人が  
喜んでくれる事  
だから好き」止まりだ

この狼藉に  
気づいても  
許してくれるだろう

そんな  
無垢な心に反して  
たわわに育った  
豊かな身体を  
好き放題に味わう

しかも  
寝ている間に。

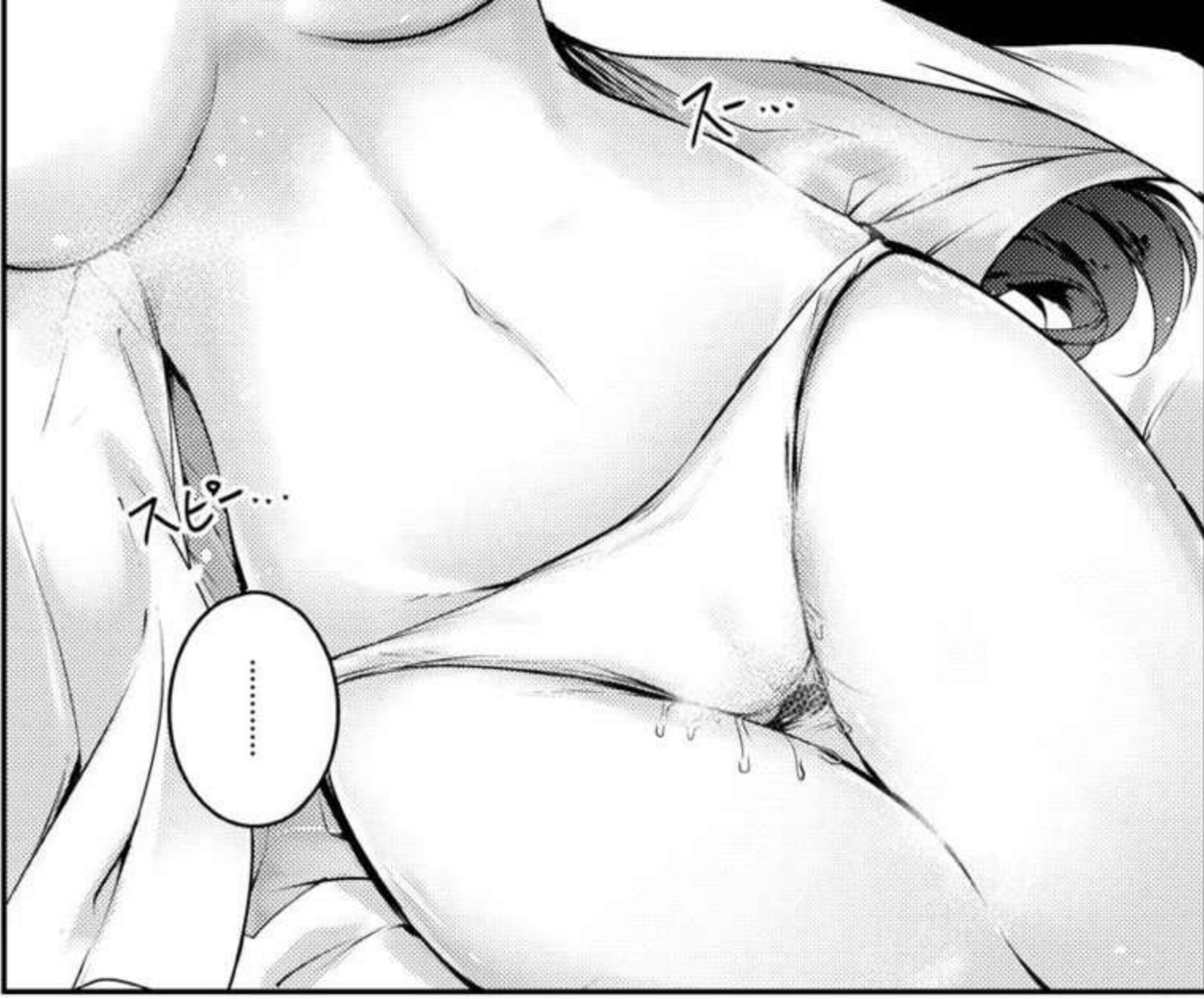


無知なのを利用し  
増長しても  
全てを許してもらえる  
そんな今の状況に

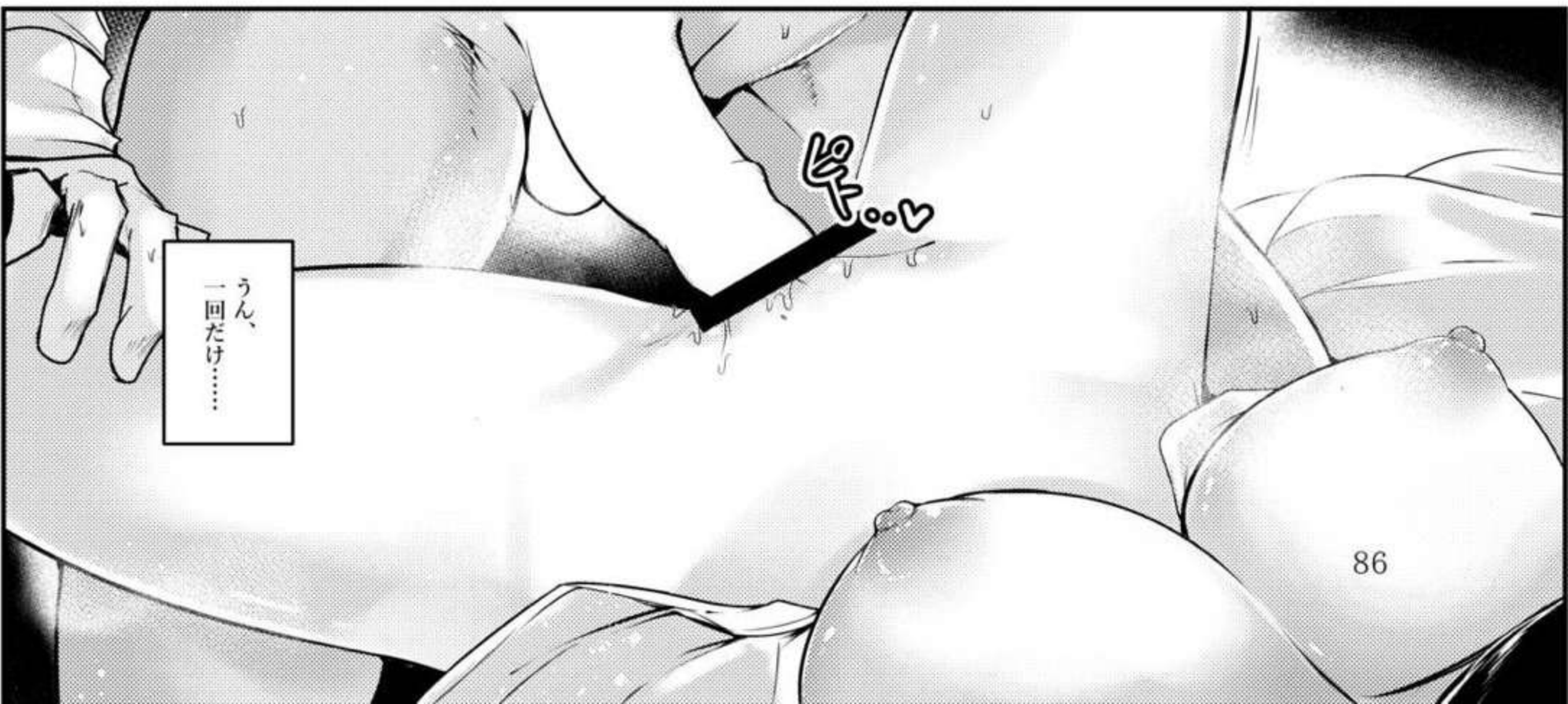
罪悪感と背徳感が  
同時にこみ上げ  
立派な胸を  
鷲掴みする手に力が入り

お空の幼さが残る顔に  
白い欲望を  
遠慮なしに吐き散らかす





起きないなら  
しょうがない



うん、  
一回だけ...



気づけば頭の中で  
謝罪の念が快感に  
塗り替えられていく感覚の  
虜になってしまっていた

膣内を擦り付ける度に  
小さく体を震わせ  
身をよじろうとする彼女を  
逃がさないよう抱きしめる

今の状況と  
同じような夢でも  
見ているのだろうか

こちらを呼ぶ  
可愛い寝言が  
漏れ出した口を塞ぎ

五感すべてで  
お空の無防備な身体を  
味わい尽くす





—その後  
寝ているお空に  
三回腔内射精した

それでも彼女は  
まだ起きなかった



どこにも  
いないと思ったり……  
お空の部屋に  
居るとはねえ

いつの間にか  
お空を抱きながら  
眠ってしまった  
いたように

お隣の尻尾が  
てしてしと  
顔に当たる感触で  
目が覚める

おーい  
起きろー



おかえり  
お隣

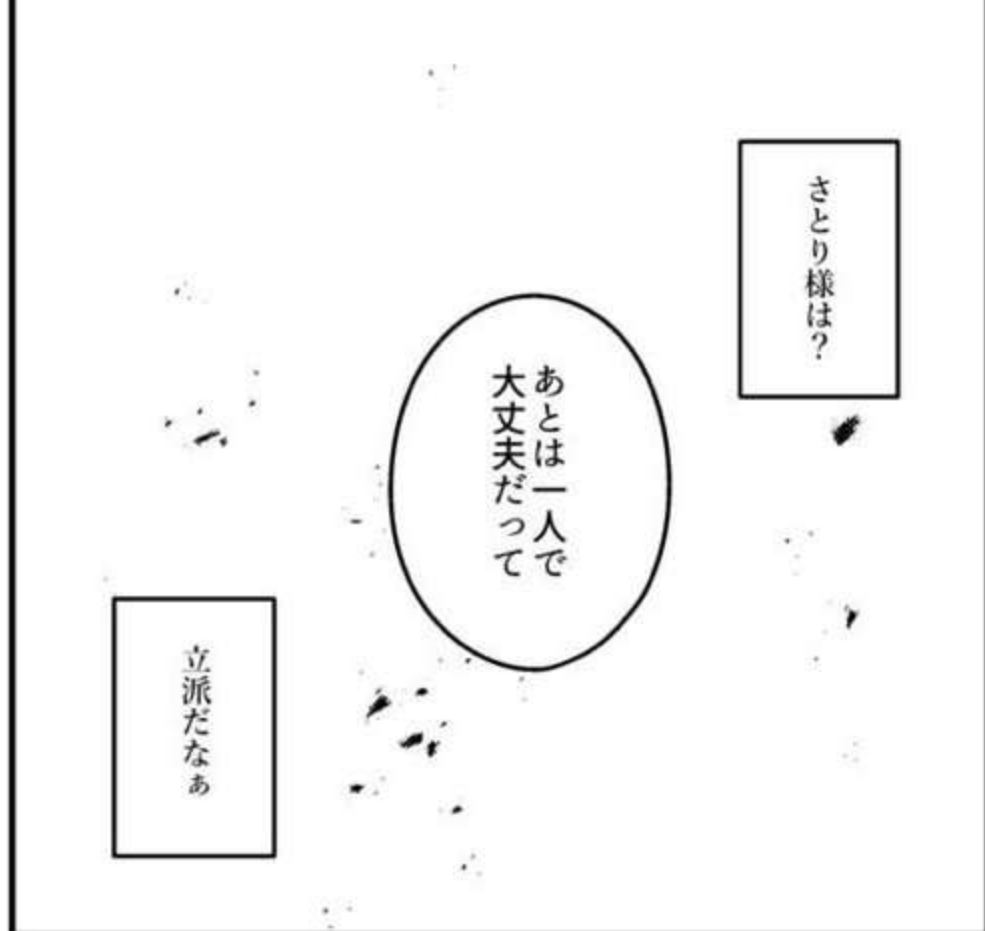
はいただいま  
……もう  
お昼過ぎだよ





……お兄さんは  
知らない  
だろうけどさ

地上でお供も無し  
こいし様も無しで  
行動するなんて……



さとり様は？

あとは一人で  
大丈夫だって

立派だなあ



……



……そんな  
自覚は  
ないけれどなあ



以前の  
さとり様だったら  
考えられなかったんだよ？

やっぱり  
お兄さんが  
隣に居てくれる  
おかげなんだろうねえ









ここまで来たら寝て曜日にしちやお?

ふっ

ふっ

ふっ

落ち着いた衣服に聳える自己主張の激しい双山が顔に押し付けられる




抱きとめるために伸ばした手が思わず細い腰を撫で

そのまま熨感的な曲線をなぞり形の良なお尻を撫で回すように動いてしまう


いゃ?






そのままぐるりと  
体勢を変えさせ  
お隣に上から  
押し掛かるような形になり

顎下や首回り、  
尻尾の付け根から内股の辺りと  
キスを落としながら  
全身を隈なく愛撫していく



猫としての  
習性なのか分らないが  
身体を撫で回されるのが  
好きなのでしょう



緩急をつけてやると  
普段のサバサバした性格からは  
ほど遠い切なく甘い声が  
口から漏れる





お隣の名前を呼ぶと  
上気した表情で  
こちらを一度  
ちらと見た後



自分から  
うつ伏せになり  
腰をぐいと高く上げ

愛液でぐっしよりと  
濡れた秘所を  
こちらに向けてくる

再び元気を取り戻した愚息を  
柔らかい膣肉で  
包み込んであげようと

可愛くひくつかせ  
待機している入り口へ  
何度か擦り付けて



声の切なさ  
が一段と上がったのを  
見計らい

一気に  
奥まで挿入する



お隣の身体が  
快楽に跳動し

その反動を  
受け止め切れなかったのか  
身体が横向きに崩れ落ちる

だがそんなのは  
お構いなしに  
ガクガクと震える  
片足を持ち上げ  
行為を続ける

途中、友人の寝顔に  
見られながら  
犯されている事を  
告げると

羞恥で顔を埋めながら  
膣内の具合が  
キュンとキツくなる



先ほどまで  
好き放題犯していた少女の隣で  
別の少女を組み伏し  
まくわっているこの光景は  
こちらにとっても興奮する



愚息をキツく  
包み込んでくる  
膣肉を  
奥まで抉り分け

全てを迎え入れようとする  
子宮が降りてくるのを  
愚息の先端で感じながら

お隣の最奥へ  
存分に精液を放つ





射精が終わるまで  
彼女の温かい身体を  
ギュッと抱きしめ

あー……  
やばい……  
なんか  
疲れと幸せで  
どっと眠気が……

しばらくの間  
お互い幸福感に  
包まれていると

ごめん……  
このまま……  
おやすみ……



恋人の妹の  
未発達な身体は  
背徳的で  
美味しかったですか？

無知と好意につけ込んで  
寝ている娘へ  
好き勝手に振る腰は  
気持ちよかったですか？

甘言蜜語に唆されて  
誘惑されるがまま  
貪る怠惰は  
楽しかったですか？





別に不機嫌になど  
なっていないですよ?


あなたが幸せなら  
私も幸せですから

恋人なのだから  
当然でしょう?



私としては  
留守にしまして  
今日一日不安で  
しょうがなかったですよ





—ええ、勿論

あの子たちだけで  
あなたが  
満足してるかどうか  
心配で心配で——

大丈夫ですよ…♡

私が  
もっと幸せにして  
あげますから…♡



これからも、ずっと。



# 地天獄

2020年10月11日  
東方紅樓夢(第16回)

発行・制作

碧猫 みどりねこ

midori0014@gmail.com

みどり

<http://www.pixiv.net/member.php?id=76139>

<https://twitter.com/midori14>

印刷

栄光印刷

謝辞

ZUN(上海アリス幻楽団)



琥珀 みどりねこ 猫